

令和7年度 長田小学校の取組み

1 研究主題名

自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～英語学習における指導の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、外国語科・外国語活動について目標と内容、指導について示された。小学校段階では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通してのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指すことが目標となっている。中学年では、「聞く・話すこと」を中心とし、高学年では、「読むこと」「話すこと」「書くこと」を通して指導することになる。

本市においては、英語特区であることから、低学年における外国語活動の実施が可能であり、低・中・高学年における指導の工夫や学びの連続性についての研究、児童が自習的にコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成するため研究が必要であると考えている。英語の授業でALTやJTEの英語に慣れ親しみ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎的な技能を身に付けるようにする。そのために必要な指導方法の工夫について研究を進めていく。目標として、以下を掲げる。

- (1) 日本語との違いに気づき、英語を聞くこと、読むこと、書くことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けさせる。
- (2) 身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに自分の考えや気持ちを伝えることができるようにする。
- (3) 外国語によるコミュニケーションを図る基礎と資質を育てる。

3 研究の主な内容

(1) 外国語教育における主体的な学びの態度の育成

外国語教育における学びとは、外国語を学ぶことや外国語でコミュニケーションすることであることから、以下の4点に留意しながら授業を行っていった。

- ① 外国語を学んだり、外国語を用いてコミュニケーションを行ったりすることに興味や関心を持たせること。
- ② 生涯にわたって外国語によるコミュニケーションを通して社会・世界と関わり、学んだことを生かしていくことを意識させること。
- ③ コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定したり理解したりして見通しをもって粘り強く取り組ませること。
- ④ 自らの学習やコミュニケーションを振り返り、次の学習につなげるようにすること。

(2) 聞くこと・話すことを充実させた授業づくり

発達段階に応じた各学年の目標を設定し、系統的・連続的な指導を通して、学習内容の定着を図りながら達成感を味わわせ、学習意欲を高めていくようにした。

【低・中学年】

- ・ ゆっくりはっきりと話す……外国語の音声や簡単な語句、基本的な表現に慣れ親しませる。
- ・ 「やりとり」を意識……まねることから、サポートを受けて身近で簡単な事柄についての伝え合いに転換し、できたという達成感を持たせる。

【高学年】

- ・ ゆっくりはっきりと話す…具体的な情報を聞き取ることと、短い話の概要を捉えることができるようにする。
- ・ 「やりとり」を意識……………それまでの学習や経験で蓄積した英語で話す力・聞く力を駆使して、自分の力で質問したり、答えたりすることができるようにする。

【全学年共通】

- ・ 生活や習慣、行事等との関連……………日本語も含めた様々な言語そのものへの理解や言語の背景にある文化に対する理解を深められるようにする。
- ・ 活動・学習形態の工夫……………ペア・グループ・学級全体と工夫することで、自己理解・他者理解を深め、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにする。
- ・ 教材・教具の工夫……………視聴覚教材やICTを効果的に活用することで、学習への興味・関心を高める。

(3) 指導方針

- ① 4月に全職員で外国語活動及び外国語科の進め方を共通理解し、ALT及び英語専科指導教員(FT)とティームティーチングによる指導について確認する。
- ② ALT及び英語専科指導教員(FT)も含め、各学年で年間指導計画を確認し、必要に応じて見直しを行う。
- ③ 全学年の児童がALTと交流できるよう、前半(4～10月)と後半(11月～3月)で担当学年を分けて指導に当たる。
- ④ 各学年で授業の打ち合わせの時間を毎週設け、ALT及び英語専科指導教員(FT)と共に授業の内容と進め方を確認する。
- ⑤ ALT・JTE及び英語専科指導教員(FT)と学級担任は、授業においてその役割を明確にすることで、児童の学習への意欲付けを行う。
 - ALT・・・コミュニケーションの相手、ネイティブ・スピーカーとしての英語力
 - 英語専科指導教員(FT)と学級担任・・・授業のコーディネーター及びデザイン

4 研究の成果と課題

第1学年 学習指導案

本時の学習

(1) ねらい

インタビューゲームをしながら、既習事項の復習をする。

他のクラスの児童と英語を使ってコミュニケーションを図る。

(2) 単元の指導計画

教案 学年: 1 - Review: Unit 1 ~ 7

GOAL めあて	SENTENCES 文章	VOCABULARY 語彙
インタビュービンゴで復習しよう。	Do you like(果物、野菜)	radish, bell pepper, lettuce, corn, potato, tomato, onion, eggplant, cucumber, carrot, pumpkin, watermelon, persimmon, lemon, pear, orange, apple, cherry, pineapple, melon, strawberry, banana, peach, grapes

Procedure - 活動	HRT - ALT	Ss (生徒)
① Greeting 始めの挨拶	挨拶、「Questions and 3 Rules」をさせる。	全員と挨拶して、リーダーの質問に答える。
② Chants and ABC	Hello Hello How are you? and ABC song	デジタル教材又はプリントを見ながら歌う。
③ Today's Goal 目当ての紹介	HRT は今日の目当てを紹介する： 「インタビュービンゴで復習しよう。」を黒板に書く。	HRT の説明を聞いて目当てを確認する。
④ Practice 活動前の練習	質問の表現を復習する。 Do you like apples? Yes I do/ No I don't フラッシュカードでリズムに乗って練習する。	ALT と HRT と必要な英語表現を確認し、練習する。
⑤ Activity	インタビュービンゴをする前に手本をみせる。 ゲームではその質問に「はい」と答えられる人を探し、そのマスにサインをしてもらう。 Activity の前に手本を見せる。 *ビンゴカードを配ってからもう一度言い方を練習する。	
Good Bye Song		
⑥ Reflection 振り返り	今日学んだことを思い出させ、振り返りカードを書かせる。	振り返りカードを記入する。
⑦ Ending 終わりの挨拶	「Goodbye friends」ソングを歌ってから全体で終わりの挨拶をする。	先生と挨拶をする。

5 各学年の取り組み

【1年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

カードゲーム、ハロウィン、すごろく、コミュニケーション活動を通して、お友達と英語でのやり取りを楽しみながら楽しく学習することができた。



合同で授業をしたよ！

友達と話し合ったり、協力したりして楽しく活動を行いながら、目標とする力を身に付けられるように授業構成を工夫しています。

【2年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

すごろくやカードゲーム、ドンじゃんけんゲームなど、多様な学習活動を通して、英語に慣れ親しみ、楽しく活動することができた。ロイロノートを活用して、自分の家族について紹介することができた。



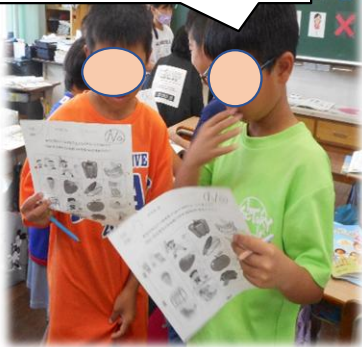
単語もたくさんおぼえたよ

【3年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

“What’s this?” の単元では、「色」「形」「特徴」の単語や “What’s this?” “Hint 1. It’s ~.” のフレーズの言い方の練習を積極的に行うことができた。また、クイズ大会でも児童が意欲的に英語クイズを出し合うことができた。

A fruits, yellow...



What’s this?



中学年になると理解できる英単語量も増えてきているため、英語を活用する活動を増やすことでさらにコミュニケーション能力向上を目指します。

【4年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

“What do you want?” では、タブレットを活用しながらオリジナルピザやパフェを作成し、友達に送ったり、紹介し合ったりしながら交流することができた。



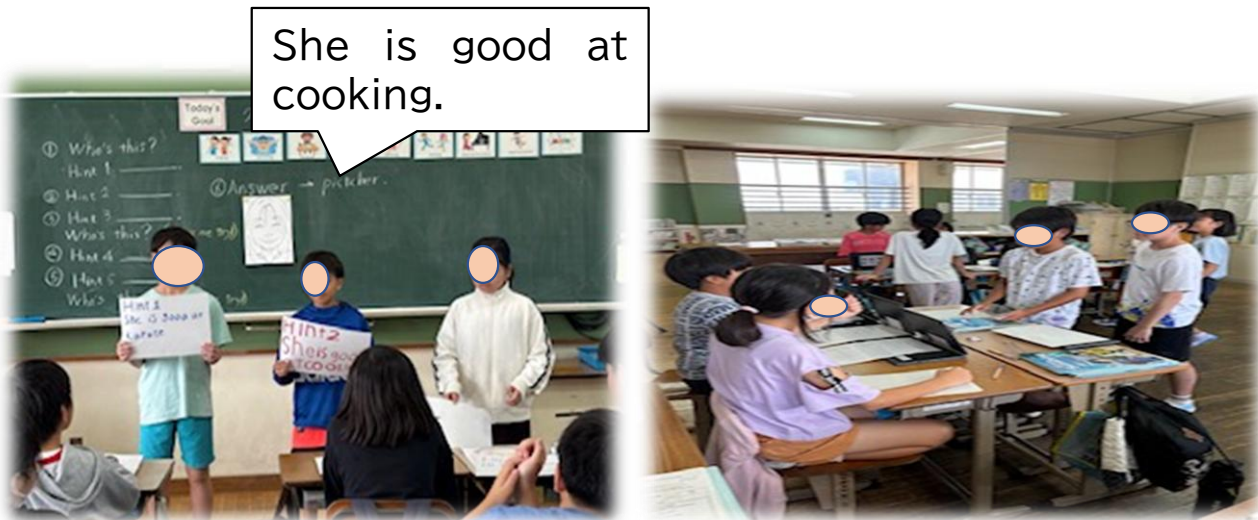
“What do you want?”
“I want ~.” のやりとりをしながら、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむことができた。

“This is my pizza.
I like ~, ~ and ~.”

【5年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

授業で学んだことの応用で、グループでクイズを作成し、英語でヒントを出しながらクイズ大会を行った。He/She is good at～.”クイズ大会でも児童が意欲的に英語クイズを出し合うことができた



伝えたいことをどう伝えるか。「外国語」では単に英語を身に付けるだけではなくコミュニケーション能力の素地を養います。

【6年生】

特に自ら進んでコミュニケーションをとろうとする姿がみられた activity

Lesson 7 「My Best Memory」では、単元のゴールを「友達と小学校の最高の思い出について伝え合おう」と設定した。ここでは、My Best Memoryとして、運動会や修学旅行などの学校行事を答えるだけではなく、自分にとって最高の思い出である理由を考え、同じ行事を選んだとしても、一人一人印象に残っている場面が違ったり、その時の気持ちがあったりする。このように自分の思いを互いに伝え合う活動を通して、自分自身の考えを深め、どのように表現したらよいか、児童同士が互いに助け合いながら取り組むことができた。



タブレットの Meet 機能を使い、他校の児童とオンラインで交流した。グループに分かれてお互いにこれまでに学んで事を生かして、自分の考えや気持ちを伝えようとする姿が見られた。

(3) 成果と課題

低学年

- ALTの発音をまねて、上手に発音練習ができた。
- 活動内容や教材の工夫がされているので、楽しんで英語に触れることができた。
- ゲームの種類が豊富で、楽しみながら英語を学習することができた。
- チャンツや歌に合わせてリズムよく単語を言ったり、聞いたりすることができた。
- 前年度（1年～2年）の学習内容を系統立てて学習しているため、単語を覚えている子が多い。
- タブレットを活用することでアクティビティーは活発になるが、タブレット操作がうまくできる児童と、そうでない児童がいる。
- インタビューゲームに夢中になり、ターゲットセンテンスを言わずに、日本語で話してしまう児童もいた。

中学年

- 1時間の流れが決まっており、児童も課題意識を持ちながら学習に取り組むことができた。
- 全体交流の前にペアで練習することで、全体交流でも活発に関わり合う様子が見られた。
- 単元を通してスモールステップで学び、様々なペアで練習を重ねながら練習ができた。
- 活動の時間がしっかり確保され、本時の言語材料を活用しながら交流することができた。
- ICT機器を活用することにより、児童の興味や意欲を高め、交流活動につなげることができた。
- 言語材料の習得に個人差があり、交流活動への意欲の低下や、外国語学習に対する抵抗に繋がっている。
- 授業中は理解しているように見えるが、しっかり定着しているかどうかは分かりづらい。

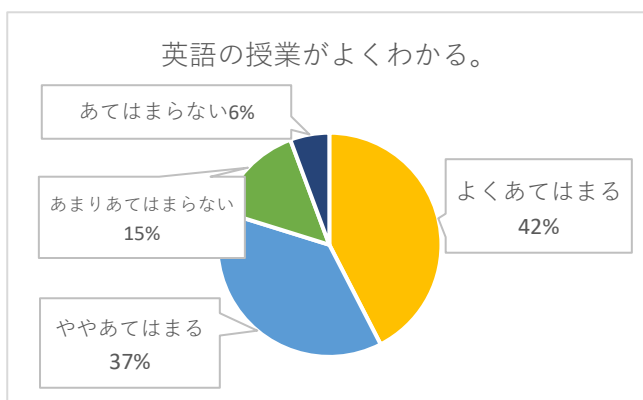
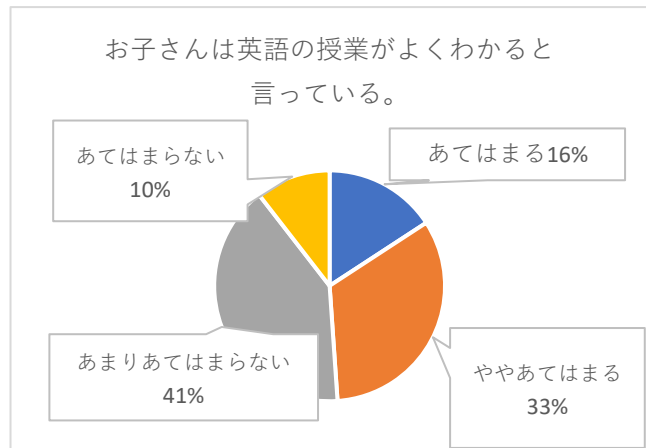
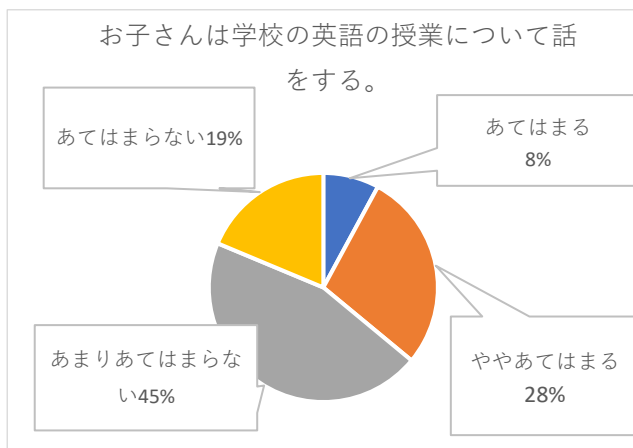
高学年

- 教師は、相手に分かりやすく伝えるために、話し方と話す内容の工夫をするよう指導した。児童は、相手の理解を確認しながらはっきり話すこと、相手の立場や考えに合わせて話す内容を考えることの必要性に気づくことができた。
- 教師が単元計画と単元のゴールを示すことで、友達とのやり取りを通して自分の考えを広げたり、表現の仕方を考えたりすることができた。
- 相手意識を持ち、内容や伝え方を考えて自分の意見を相手に伝えることができるようになってきた。
- 聞き手は相槌やリアクションをしながら意識して相手の話を聞くことで、やりとりを通したコミュニケーションが少しずつ身についてきた。
- 単元によって難しい単語や表現があり、苦手を感じる児童が見られた。
- 日常生活や他の教科で学んだことをつなげることができず、自分の考えや気持ちを表現することが難しい児童がいる。

(4) 課題に対する対応策

- ・ゲームのルールをしっかり理解させてから活動に取り組みせ、適宜声掛けをする。
- ・授業の最後に学習内容のフォローアップを行い、難しい単語やフレーズを再度HRT/ALTと確認する。
- ・HRTとALTが連携し、困っている児童のフォローに入ったり、ペアを工夫したりする。
- ・タブレットを活用した言語材料の反復練習や、ゲーム形式の学習の導入を行う。
- ・児童にとって難しいと思われる単元は、予定時数より多く時間をかけて理解を深めさせる。
- ・委員会からの形成評価だけでなく、既習フレーズの会話チェックなどを学期に1回程度実施し、サポートが必要な児童を明確に把握する。

5. 外部評価 ※学校評価アンケート（保護者・児童）より



英語に関する保護者の意見として、「お子さんは学校の英語の授業について話をする。」という質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と答えたのは、全体の 36%であった。また「お子さんは英語の授業がよくわかると言っている。」という質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と答えたのは全体の 49%であった。一方、児童アンケートの結果では、「英語の授業がよくわかる」という質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と答えたのは、全体の 79%であった。

この結果から、児童は家庭では英語の授業についての話題は出さないが、学校においては多くの児童が英語学習に意欲的に取り組み、学習内容を理解をしていることがわかった。一方で、英語の理解が難しい児童や苦手意識のある児童も一定数いることがわかった。